

# [江別市] 施策達成度報告書

**政策** 05 豊かさと創造性を育む生涯学習環境の充実

**施策** 01 子どもの可能性を伸ばす教育の充実

主管課 総務課

## 施策の環境変化と課題

施策の環境変化 (24年度)	施策の課題 (24年度)
<p>現在、人口減少や高齢化、グローバル化、高度情報化などとともに、少子化による社会活力の低下、環境問題、規範意識の低下などが深刻化しています。</p> <p>更に、都市化の進展など社会の成熟化に伴い、地域社会の連帯意識の希薄化や家庭での教育力の低下が指摘されるなど、教育を取り巻く環境が大きく変化してきています。</p> <p>江別市においても、児童生徒数が毎年300人程度減少するなど少子化は深刻度を増しています。</p> <p>東日本大震災の後「安全・安心の確保」が各分野で最重要課題として取り組まれ、教育分野においても、学校施設の耐震化は急務となっており、老朽化した校舎の改築、統合に向けた事務を進めています。</p> <p>また、全国的な報道等を受け、教職員の体罰、いじめ問題、通学路安全対策など、児童生徒の安全対策に対する市民の関心が高まっています。</p>	<p>これからの社会を生きるため、基礎的な知識・技能を習得し、それらを活用して、自ら考え、さまざまな問題に積極的に対応できる力を育むことが必要です。</p> <p>学力の定着に向けて、長期休業中や放課後の指導等の学習支援を更に進めるほか、退職教員や地域の学習支援ボランティアなど、幅広く地域の人材を活用しながら、きめ細やかな指導を行う必要があります。また、家庭においても、学習習慣や生活習慣を改善する必要があります。</p> <p>平成24年度からの中学校の武道必修化に対応し必要な備品の配備や安全対策などを充実させる必要があります。</p> <p>保護者の要望や学校の対応状況に応じ、特別支援学級を更に充実させるほか、普通学級に在籍する特別な支援を要する子どもへの支援を充実させる必要があります。</p> <p>耐震化未済の学校の改築を計画的に進めることなど、安全・安心で快適な教育環境の整備・充実が必要です。</p>

## 施策の目的

子ども一人ひとりの個性をとらえ、知育、徳育、体育の教育的営みの中で、「個々に応じた教育」を実践することによって、社会に貢献できる人材を育成します。

## 対象 (誰を対象とした指標か)

小・中学生

## 意図 (対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい)

基礎・基本の学力を確実に身につけ、自分で課題を見つけ自ら学び自ら考え主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する能力や豊かな人間性、健康と体力等の「生きる力」を育成する。

## 施策の目的をあらわす指標の動き (成果指標)

施策の成果をあらわす指標	単位	初期値	22年度	23年度	24年度	後期目標値
「生きる力」が身についた児童・生徒の割合	%	64.9	68.3	69.3	77.6	↗

## 施策の達成状況 (24年度)

いじめ・体罰の報道等を受け、教育に対する市民の関心が高まる中であって、子ども達は、学校の授業では私語が少なく、礼儀正しく、落ち着いて学習の臨んでいます。複数教員による指導や少人数指導など、児童・生徒一人ひとりの理解度に応じ、工夫しながら指導を行ってきたことにより、成果指標は向上しています。

今後も、放課後や長期休業期間における学習支援や習熟度別指導の実施など、更に指導方法の工夫に努め、成果向上を目指します。

施策事業コスト	23年度決算額	24年度決算額	25年度当初予算
トータルコスト(千円)	2,171,647	2,366,715	2,781,564
事業費(千円)	1,543,124	1,725,354	2,128,943
人件費(千円)	628,523	641,361	652,621

## 01 教育内容の充実

### 基本事業の目的

特色ある教育メニューをつくり教育内容の充実を図ることで、子ども一人ひとりの個性に応じた教育が受けられるようにします。また、障がいのある子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な教育的支援が受けられるようにします。

### 対象 (誰を対象とした指標か)

小・中学生

### 意図 (対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい)

きめ細かく、時代に即した教育の促進を図る。

### 基本事業の目的をあらわす指標の動き (成果指標)

基本事業の成果をあらわす指標	単位	初期値	22年度	23年度	24年度	後期目標値
教科の勉強が好きと答えた児童・生徒の割合	%	68.0	70.5	71.3	73.7	↗
学校の授業が分かると答えた児童・生徒の割合	%	95.3	90.3	91.6	88.7	→
不登校児童・生徒数	人	89	78	78	80	75

### 基本事業の達成状況 (24年度)

教科の勉強が好きという割合が前年度より増加したのは、ボランティア講師の活用など複数教員による指導や少人数指導などによるものであり、学校の授業が分かるという割合が前年度より減少したのは、学習学習指導の改訂に伴い学習内容が質・量ともに増加したことが影響したものと考えられます。今後も、長期休業期間等の学習支援や習熟度別指導の実施など、分かりやすい授業となるよう指導方法の工夫に努めていく必要があります。  
不登校児童生徒数は、横ばい傾向ですが後期目標値には到達しておらず、一層の指導対応に努める必要があります。

基本事業コスト	23年度決算額	24年度決算額	25年度当初予算
トータルコスト(千円)	298,507	385,864	469,571
事業費(千円)	252,759	332,959	415,596
人件費(千円)	45,748	52,905	53,975

## 02 開かれた学校づくり

### 基本事業の目的

学校、家庭、地域が連携して開かれた学校づくりを進めることにより、子ども達を健康的に育みます。

### 対象 (誰を対象とした指標か)

小・中学生、地域

### 意図 (対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい)

学校、家庭、地域が連携し子ども達を育む。

### 基本事業の目的をあらわす指標の動き (成果指標)

基本事業の成果をあらわす指標	単位	初期値	22年度	23年度	24年度	後期目標値
学校、家庭、地域が連携していると思う市民割合	%	67.0	-	71.2	72.1	↗
学校が地域交流の場として、活用されていると思う市民の割合	%	53.4	-	59.0	60.1	↗

### 基本事業の達成状況 (24年度)

いずれの指標も増加傾向にありますが、これは学校一斉公開やホームページでの紹介、学校評議員への地域の方の委嘱、学校関係者評価などにおいて地域の方の意見を学校経営に取り入れる取組や、三中学校区で地域の方が学習支援ボランティアとして学校に来ていただけになったこと、また、東日本大震災を契機に避難所としての学校への関心が高まったこと等によるものと考えられます。今後は、学習支援ボランティアの取組を市内全域に拡大するなど、学校と家庭、地域の連携が図られ、地域交流の場となる取組を進めていきたいと考えております。

基本事業コスト	23年度決算額	24年度決算額	25年度当初予算
トータルコスト(千円)	5,487	5,497	5,658
事業費(千円)	3,079	3,092	3,241
人件費(千円)	2,408	2,405	2,417

### 03 健康と食育の充実

#### 基本事業の目的

正しい生活習慣を身につけ、食の大切さを理解しスポーツに親しむことによって、心身ともに健康な身体を育みます。

#### 対象 (誰を対象とした指標か)

小・中学生、保護者

#### 意図 (対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい)

健康な体を育む。

#### 基本事業の目的をあらわす指標の動き (成果指標)

基本事業の成果をあらわす指標	単位	初期値	22年度	23年度	24年度	後期目標値
朝食を食べて学校に通う児童・生徒の割合	%	81.9	84.6	83.1	84.4	↗
学校給食の残食率	%	18.8	18.7	19.6	19.9	18.0
スポーツに親しんでいる児童・生徒の割合	%	64.5	-	56.2	58.4	↗

#### 基本事業の達成状況 (24年度)

朝食を食べて学校に通う児童・生徒の割合及びスポーツに親しんでいる児童・生徒の割合はともにやや増加しており、学校給食の残食率は上昇しました。栄養教諭による「食に関する指導」を継続して行っておりますが、指導時間数が十分確保できないことも成果が表れない要因と考えられます。そのような中、平成24年10月に市内全公立小中学校一斉に「食育弁当の日」を実施し、児童生徒はもとより保護者にも食育について考えてもらう機会を設けました。  
また、朝食を食べて学校に通うことやスポーツに親しむことなど基本的な生活習慣について家庭への啓発に努めていきます。

基本事業コスト	23年度決算額	24年度決算額	25年度当初予算
トータルコスト(千円)	477,686	478,271	474,319
事業費(千円)	299,429	307,850	294,992
人件費(千円)	178,257	170,421	179,327

### 04 教育環境の充実

#### 基本事業の目的

学校の適正規模化を推進し、さらに学校施設の整備を図るなど教育環境を充実させることで、子ども達にとって安全で快適な「学び舎」にします。

#### 対象 (誰を対象とした指標か)

学校施設

#### 意図 (対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい)

快適で安心して学習のできる学校施設が整っている。

#### 基本事業の目的をあらわす指標の動き (成果指標)

基本事業の成果をあらわす指標	単位	初期値	22年度	23年度	24年度	後期目標値
適正規模(12クラス~18クラス)の学校の割合	%	44.8	48.3	46.4	48.1	50.0
学校施設維持管理上の不具合のうち授業に支障が発生した件数	件	0	0	0	0	0
耐震化を終えた学校の割合(参考)	%	48.3	65.5	71.4	81.5	↗

#### 基本事業の達成状況 (24年度)

学校適正配置については、江別市学校適正配置基本計画に基づき、平成23年4月江北中学校を江別第三中学校に、平成25年4月角山中学校を中央中学校にそれぞれ統合しました。また、江別小学校と江別第三小学校の統合についても基本的合意を得ており、適正規模(12~18クラス)の学校の割合は目標の50%に向け着実に増加しています。校舎屋体の耐震化については、計画的に耐震改修を進めた結果、耐震補強により対応できる校舎屋体については平成24年度までに全て改修を終え、今後は老朽化した校舎を取壊し改築することにより耐震化率を高めていきます。今後も、事務事業の総合的取組・成果の向上を目指します。

基本事業コスト	23年度決算額	24年度決算額	25年度当初予算
トータルコスト(千円)	1,061,048	1,178,018	1,295,914
事業費(千円)	709,910	813,690	929,769
人件費(千円)	351,138	364,328	366,145